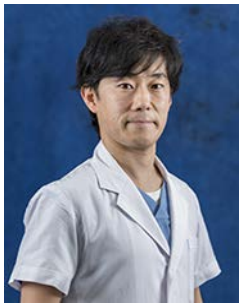
■YCOG2003（佐藤　渉先生）



Sato S, Kunisaki C, Kondo H, Tsuchiya N, Tanaka Y, Takahashi M, Sato K, Kimura J, Ono HA, Makino H, Tamura Y, Kasahara K, Kosaka T, Akiyama H, Endo I: Is Prophylactic Splenectomy Necessary for Proximal Advanced Gastric Cancer Invading the Greater Curvature with Clinically Negative Splenic Hilar Lymph Node Metastasis? A Multi-Institutional Cohort Study (YCOG2003). Ann Surg Oncol, 29(9): 5885-5891, 2022.

今回 YCOG2003 試験の結果を Annals of Surgical Oncology に掲載していただきました。JCOG0110 試験で大弯に浸潤のない上部胃癌では脾温存群が脾摘群と比較して生存期間の非劣性を示し、合併症発生率と出血量が少なかったことから同症例に対する脾摘は推奨されておりませんでした。しかしながら大弯浸潤を伴う上部胃癌に対する脾摘は controversial で、リンパ節転移頻度の高さから脾摘を推奨する報告も散見されました。今回私は「術前の CT で脾門リンパ節が腫大していない症例に対する予防的脾摘は必要なのか」というクリニカル・クエスチョンを明らかにするために YCOG2003 研究を行いました。脾摘群では病理学的脾門リンパ節転移頻度が 3.0%で、脾温存群では術後脾門リンパ節転移再発頻度 2.7%と低く、両群間の無再発生存期間・全生存期間ともに有意差を認めませんでした。脾摘群は感染性合併症が多く、術後在院日数が長い結果でした。以上より術前に脾門リンパ節が腫大していない症例に対する予防的脾摘は推奨されないことが示唆されました。YCOG の上部消化管グループの各関連施設からデータを集積しこのような報告をすることができ大変嬉しく感じるとともに、研究にご協力いただいた先生方や YCOG のスタッフの方々に深く感謝しております。今後も YCOG という基盤で若手の先生が様々な研究ができるように尽力していきたいと思います。

横浜市立大学附属市民総合医療センター

消化器病センター外科　助教

佐藤　渉